



週刊 防衛副大臣 おにき まこと 誠



幹部会議からの 防衛大臣会見

官邸での非常災害対策本部会議を前に、防衛大臣室にて防衛省・自衛隊の幹部会議が開かれ自衛隊統合任務部隊JTF (joint task force) からの報告を受けました。

被災地では行方不明者の捜索に加え、温かい食事の提供や入浴支援も開始しました。

また被災地は通信が途絶した回線もあるため、ホバークラフト (LCAC/エルキャック) を使用して復旧作業員や車両を輸送しました。

自衛隊の医官や看護官を被災地派遣し、医療支援活動も始まりました。

飲み水も生活用水も事欠いていましたが、輪島浄水場の水生成能力が50%復旧したとの報告もありました。一步一步…などと悠長なことは言ってもらえない時ですが、ほんとに現場は一步一步なのです。天候も悪くなる中、現場は懸命にやっています。(職務上は身内の) 私が言うべきことではないのかもしれませんが、感謝しかありません。



統合任務部隊とは？

自衛隊は1月2日に統合任務部隊 (以下JTF = ジョイントタスクフォース) を立ち上げました。JTFとは、陸海空それぞれ別組織になっている部隊を一元的に統合運用するための司令部です。今回は陸上自衛隊中部方面総監が司令官となり、全体を指揮します。

震源地である能登半島北部は山がちで、海岸線沿いの幹線道路は土砂崩れで交通遮断されてしまいました。陸海空それぞれが協力しあって孤立集落への救命救助に向かっています。

港が壊れて船が着岸できないため、輸送艦からホバークラフトを出して砂浜に上陸します。ホバークラフトからブルドーザーが降りて道を切り拓きます。また輸送艦から飛び立ったヘリコプターが物資を空輸します。ヘリが着陸できる場所は限られているため、孤立集落に向けて陸自の隊員が水・食料・灯油を背負って崖っぷちを歩いて届けます。陸海空統合運用が見事に発揮されている様子は、海外からも驚きと賞賛の評価を受けています。



ホバークラフト(LCAC)から車両をおろす。